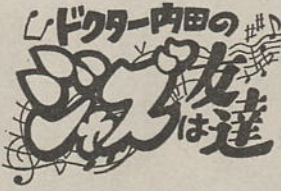


国内盤「くわすか

お話をもどすわけではないが、あの「フォーサウンズ」のCDですら自主製作だと書いたのを憶(おぼ)えておいでかしら。「ジャズ」というカテゴリーに入るCDは年間およそ二五〇〇種、つまり月一〇〇枚以上も店頭に並ぶ。

△⑦△



でもそのほとんどが、海外からの原盤でつくられたもの。日本人ジャズメンの国内盤は月に五枚もあればいい方だ。そしてそれでも、売り上げの安定した、ひとにぎりのミュージシャンに限られてい

三月下旬の一夜、僕は東京では最も優れたジャズの聴ける新宿「ビットイン」に寄った。大好きな「渋谷毅オーケストラ」が出ていたからだ。うれしいことに、このバンド、八六年秋のYJCコンサートのために臨時に結成され、そのまま解散するにしのびずというメンバーたちの意志で、毎月一回日曜日、「ビットイン」を根城に地道な活動を続けている。何しろリーダークラスの集まりだから、その維持は大変だが、少ないけれど熱心なファンを前に、全員喜々としてプレーするのを見て心から感動した。リーダーの渋谷は飛び抜けた才能の作曲家兼ピアノリストだと思っけれど、そのオーケストラが、この春出すCDも、結局自費出版になってしまつて

富樫もストレスで

と云つて、先日まで僕の病院に富樫雅彦がいた。「ジャズに乾杯」の中でお話しした

渋谷毅も自費CD
報われない人たち

放浪の天才ドラマートガシ少年だが、車いすになって二十年近く、今では世界的打楽器奏者として高い評価を受けながら活動を続けている。箱根のふもとに住む彼から

電話で、胃の調子が悪いというのを聞き、東京の病院に紹介したのだが、岡崎の方が安心できるからなと喜ばせて久しぶりの姿を現した。幸い特別な異常もなく「神経性胃炎」といふこと(こ)きま

すっかり元気になった。それにして、頂点に立って創造し続けるというのは大変なストレスなんだねえ。退院祝いの席で、近く峰厚介とピアノの佐藤允彦を迎えて開くコンサートのことを明



名古屋のジャズイン・ラプリーに出演した
渋谷毅オーケストラ。左端が渋谷毅

Kテレビを見ていたら佐藤がカーネギーホールで、向こうのオーケストラを率いてタクトを振っていた。日付を見たら、名古屋に来た直前だ。あの時そんなこと言ひわなかったなあ。彼にとってはあるは日常のことかもしれないね。そんな忙し佐藤だが年賀状には、「こどもも楽しい企画考えて呼んで下さい」。

録音済み発売未定

一方、フォービート(ジャズの基本的リズム)をやらせたら右に出るものなしと言われた富樫でも、トロンボーンを加えたカルテットのレコーディングを終えながら発売未定だという。僕たちジャズ仲間も、心をゆさぶる音楽を生みながら報われないこうしたアーティストたちのために微力を尽すことに生きがいを感じているが、評論家の方たちも、もっと彼らの生の音を聴いて、早く陽光さし込む状況にしてほしいなあ。